

小・中学校の教員になるには

1 教員養成課程のある大学で、必要な単位を取得する。単位というのは授業のこと
単位取得のためには、教育実習も行う。(2~4週間)

2 都道府県教育委員会に免許を申請する。教員免許状は国家資格である。

3 教員免許の種類

小専修・・・4年制大学のあと2年間の大学院

中専修・・・4年制大学のあと2年間の大学院 教科専門の免許状

小1種・・・4年制大学 通信制大学

中1種・高1種・・・4年制大学 通信制大学 教科専門の免許状

小2種・・・4年制大学、または2年制の短期大学

中2種・高2種・・・4年制大学、または2年制の短期大学 教科専門の免許状

特別免許状・・・特別免許状の授与に当たっては、都道府県教育委員会が行う教育職
員検定に合格する 必要があり

臨時免許状・・・やむをえず、都道府県教育委員会が採用する場合 3年間有効

4 教員採用試験(1次・2次)

都道府県ごとに行われる。筆記、面接、適性検査あり 小学校の倍率は3倍くらい
受からなくても、先生にはなれる。ただし正規採用ではなく臨時講師として

5 教員としてのキャリア形成

新規採用後、だいたい1校当たり3~5年勤務する。採用後10年間で3つの学校
を経験するのが暗黙のルール。学級担任、学年主任、生徒指導主任(主事)、研修主任、
特別支援コーディネーター、教務主任などの役職を経験する。

管理職を希望する場合は、40代後半くらいくらいから、主幹教諭、教頭、校長選考
試験を受験する。65歳定年で、60歳をこえると、校長や教頭は普通の教員にもど
る。(役職定年)

6 教員はブラック職場と言われるが・・・

勤務する学校によって差が大きい。笠原小は、残業が少ない。

小学校勤務のよいところは、夏休みや冬休みをまとめて取れること。

中学校は部活動が大変だったが、今後は学校ではなく地域での活動になっていく。

日々、子どもと接し、子どもの成長を間近で感じられるやりがいのある仕事。市役所
や県庁などの職員と同じ地方公務員であるが、教員の方が給料は高い。

子どもを産んで育てる制度が整っており、子どもが保育園等に通えば、職場復帰でき
るメリットがある。

特別に給料が高いわけではないが、夫婦で教員だと、それなりに余裕がある。女性に
とっては、男性と給料が同じでメリットが大きい。

小学校という職場を楽しみましょう

1 職務上知りえた個人情報、学校外で話してはいけません。(守秘義務)

「〇〇さんは、漢字がぜんぜん書けていない。」

「□□さんは、いじめられている。」

「△△さんは、不登校。」

「◎◎さんは、発達障害」

※ 一見すると日本人のようですが、外国にルーツをもっていて日本語が十分に身に付いていない子がいます。

※ 特別支援学級には、困り感をもった子がいます。

2 子どもたちといっぱい話をしましょう。

自分の話を熱心に聞いてくれるだけで、子どもはその人が好きになります。

担任の先生も気づいていない、その子のいいところを見つけてほめましょう。

あなたの失敗談や小学校のときに困っていたことを、子どもたちにどんどん話しましょう。

自分の周りに集まって来ない、ちょっと離れて様子をうかがっている子は、あなたに声を掛けられるのを待っています。

給食や昼休みは、子どもとの距離をグッと縮めるチャンスです。

どんなふうに子どもたちに声を掛けたいのか分からないときは、「さ・し・す
せ・そ」を意識してみましょう。

さすがだね 才能あり しらなかったよ しっかりできてりっぱ すごいね すばらしいね すてきだね せんせいよりうまいね センスがいいね そうなんだ それいいね
--

3 学校の先生たちとコミュニケーションを積極的にとりましょう。

指示を待つのではなく、自分からやってみたいことを伝えてみましょう。

(書き取りやプリント、ノートやテストの丸付け 背面黒板等の掲示)

教員という仕事の魅力を聞き出しましょう。

4 先回りして教えすぎないようにしましょう。

子どもたちに先回りして指導する必要はありません。困り感に寄りそい、その子が求めてきたときに支援をしましょう。できるようにさせなくてもいいのです。